

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年1月7日

協議会名: 氷見市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
加越能バス株式会社	運行系統名: ひみ番屋街経由氷見市民病院  運行区間: JR氷見駅～ひみ番屋街～氷見市民病院	1 バス位置情報「とやまロケーションシステム」を市広報紙、ホームページに掲載し、周知した。 2 現状分析と計画策定の基礎データとして乗降調査を実施した。 3 乗継方法の周知のため、氷見線とフィーダー系統の時刻表を掲載した「ひみまちなかバスマップ」を市内各所のほかバス車内に配架した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	B 1 目標 ・1便あたりの利用者数目標値 平日3.9人、土日祝日7.5人 ・系統別の年間利用者数 1,500人 2 効果達成状況 ・1便あたりの利用者数目標値 平日4.3人、土日祝日5.8人 ・系統別の年間利用者数 2,488人 1便あたりの平日利用者数、系統別年間利用者数は目標を上回った	1 コロナ禍により土日祝の観光利用者が減少、今後の急激な回復は見込めないため、コロナ禍の状況を踏まえ、土日祝日の目標値を適切に設定する。  2 通勤・通院等の平日利用者は取り込めているため、乗降調査と利用実態の把握を継続し、JR氷見線・地域間幹線系統との乗継利便性を確保・維持する。
加越能バス株式会社	運行系統名:ひみ番屋街  運行区間: JR氷見駅～ひみ番屋街	1 バス位置情報「とやまロケーションシステム」を市広報紙、ホームページに掲載し、周知した。 2 現状分析と計画策定の基礎データとして乗降調査を実施した。 3 乗継方法の周知のため、氷見線とフィーダー系統の時刻表を掲載した「ひみまちなかバスマップ」を市内各所のほかバス車内に配架した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	B 1 目標 ・1便あたりの利用者数目標値 平日3.9人、土日祝日7.5人 ・系統別の年間利用者数 5,800人 2 効果達成状況 ・1便あたりの利用者数目標値 平日4.3人、土日祝日5.8人 ・系統別の年間利用者数 4,828人 1便あたりの平日利用者数は目標を上回った	1 コロナ禍により土日祝の観光利用者が減少、今後の急激な回復は見込めないため、コロナ禍の状況を踏まえ、土日祝日の目標値を適切に設定する。  2 通勤・通院等の平日利用者は取り込めているため、乗降調査と利用実態の把握を継続し、JR氷見線・地域間幹線系統との乗継利便性を確保・維持する。

<p>加越能バス株式会社</p>	<p>運行系統名： 市街地循環左回り</p> <p>運行区間： 氷見市民病院～JR氷見駅～ 氷見市民病院</p>	<p>1 バス位置情報「とやまロケーションシステム」を市広報紙、ホームページに掲載し、周知した。</p> <p>2 現状分析と計画策定の基礎データとして乗降調査を実施した。</p> <p>3 乗継方法の周知のため、氷見線とフィーダー系統の時刻表を掲載した「ひみまちなかバスマップ」を市内各所のほかバス車内に配架した。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された</p>	<p>B</p> <p>1 目標 ・1便あたりの利用者数目標値 平日3.9人、土日祝日7.5人 ・系統別の年間利用者数 5,800人</p> <p>2 効果達成状況 ・1便あたりの利用者数目標値 平日4.3人、土日祝日5.8人 ・系統別の年間利用者数 5,649人 1便あたりの平日利用者数は目標を上回った</p>	<p>1 コロナ禍により土日祝の観光利用者が減少、今後の急激な回復は見込めないため、コロナ禍の状況を踏まえ、土日祝日の目標値を適切に設定する。</p> <p>2 通勤・通院等の平日利用者は取り込めているため、乗降調査と利用実態の把握を継続し、JR氷見線・地域間幹線系統との乗継利便性を確保・維持する。</p>
<p>加越能バス株式会社</p>	<p>運行系統名： 市街地循環右回り</p> <p>運行区間： 氷見市民病院～JR氷見駅～ 氷見市民病院</p>	<p>1 バス位置情報「とやまロケーションシステム」を市広報紙、ホームページに掲載し、周知した。</p> <p>2 現状分析と計画策定の基礎データとして乗降調査を実施した。</p> <p>3 乗継方法の周知のため、氷見線とフィーダー系統の時刻表を掲載した「ひみまちなかバスマップ」を市内各所のほかバス車内に配架した。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された</p>	<p>B</p> <p>1 目標 ・1便あたりの利用者数目標値 平日3.9人、土日祝日7.5人 ・系統別の年間利用者数 5,800人</p> <p>2 効果達成状況 ・1便あたりの利用者数目標値 平日4.3人、土日祝日5.8人 ・系統別の年間利用者数 4,795人 1便あたりの平日利用者数は目標を上回った</p>	<p>1 コロナ禍により土日祝の観光利用者が減少、今後の急激な回復は見込めないため、コロナ禍の状況を踏まえ、土日祝日の目標値を適切に設定する。</p> <p>2 通勤・通院等の平日利用者は取り込めているため、乗降調査と利用実態の把握を継続し、JR氷見線・地域間幹線系統との乗継利便性を確保・維持する。</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和3年1月7日

協議会名:	氷見市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>氷見市は富山県北西部、能登半島の基部に位置し、面積は230.56km<sup>2</sup>、人口は47,992人(平成27年国勢調査)である。近年では急速な人口減少・高齢化が進展しており、自家用車に依存した生活様式が定着していることもあり、民間バス事業者の路線廃線が相次いでいる。</p> <p>市内の公共交通は、JR氷見線の終点駅である氷見駅と、高岡方面から市内北部及び氷見市民病院を結ぶ地域間幹線系統バスとなっており、中心市街地内の主要な公共施設及び商業施設を周遊する路線はなく、自力での移動が困難な高齢者・障がい者・学生等の移動を十分に支援できていない。</p> <p>そのため、生活利便施設を周遊する「氷見市街地周遊バス(4系統)」を運行し、市街地周辺の地域住民の交通手段の確保・維持、来訪者の移動手段を確保し、JR氷見線や地域間幹線系統バスをはじめとした既存の路線バスとの接続性を高めることで、市内の公共交通の利便性向上を目指す。</p>